

・・・雨でも休まず、186回、187回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：小原本陣の森：4月 8日：第二土曜日、参加費2000円、
午前：森林整備、午後：満開の桜の木の下で楽しい小原町と交流会、
弁当を持って来ないこと。
- ・ 定例活動2：若柳嵐山の森：4月16日：第三日曜日、参加費4月から400円
里山交流、望星の森に栎の移植、
川崎ネイチャーフェスティバル準備にJR貨物など多数参加。
- ・ 定例活動3：甲州古道復活：4月22日：第四土曜日、
- ・ 服 装：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。
- ・ 持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証、食器(椀・箸)。
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

優れた遺伝子の責務

現在ある地球の全ての生命体はその発生以来、繰り返し淘汰された結果で、優れたものであるからこそ現在、多種多様な生命として存在する。人間の遺伝子は、生物40億年の蓄積の結果であり、人間は地球の膨大な種の一つであることを自覚して、私たちは、この地球に生かされているあらゆる生命体の「命を引き継ぐ」事にもっと真剣でなければならない。

39億・地球の森林総面積／0、15億・毎年減少する森林面積=260年。

今そのまま何もしなければ後、260年で地球の呼吸器：森が無くなる計算だ。

人間は自分の持続性のために自分自身の外にリソースを確保するシステム、例えば、言葉、文字、貨幣、蒸気機関や原子力、ITなど膨大なものを創造した。これによって人間は生命体のボリュームを超えた能力を持つようになった。その能力によって人間は、自分の便宜を保つために環境を変えてしまう行為を当然のように行っているが、地球の生命体を破壊する傲慢さが、あと260年で森林が無くなると言う数字になっている。

但し、人類と言う遺伝子は優れているが故に、ボリュームを超えて地球資源の消費・環境破壊をする事が人類の滅亡に繋がると言うことに気付き始めた。当会の「地球の森林を守れ」運動は始めたばかりであるが、当会のような普通の世界中の人々の自覚こそ「地球の森林を守る」ことを可能にすると確信している。

私は、優れた人間の遺伝子を信ずるが故に人類は、京都議定書のような仕組みつくりをして、260年で地球から森林が無くなるような愚を犯さないとおもう。

冬晴れの中、26人の森の間が集まった。この日も石井山の間伐・枝打ち、集合所付近・林道沿い広葉樹林での、シイタケつくりに必要なホダ木としてコナラの伐採が特別に行われた。

急斜面でおなじみの石井山に入るメンバーの殆どは、お昼の暖かい汁物よりも2往復の辛さから逃れたいと現場まで弁当持参で意気込んだ。この日の成果は・・・

枝打ち28本、間伐24本。2回を終えてフト見渡すと間伐エリアが程よくすっきりし始めているのに気付く。また枝打ちエリアも、まっすぐに伸びた1本1本の木が何にも邪魔されずに並んでいのがよく見えるようになっている。間伐作業は、枝と枝が絡まって、そう簡単に倒れてくれないので、その都度ロープを必要とした。

一方ホダ木班は、足場の余り良くない斜面での、コナラ伐採に悪戦苦闘をしていたようだった。それでも現場でちょうど良い長さに切ったコナラ丸太が10数本運び出され、後はコマ打ちを待つばかりとなった。午後から、竹伐採班も出かけて行き、軽トラに沢山の竹を積んで帰って来た。炭釜班は、補修作業を必要としているので、美女谷の塚本師匠にまたお願いして、一緒に完成させたい。

* 伊勢屋（小林宏仲）さんから差し入れ：

お昼の休憩時間に小林さんが息子さんを連れて訪ねて見えた。

「皆さんのお陰で森がドンドン、綺麗になっています。本当にありがとうございます。ほんの些少ですが活動費の足しにしてください」・とお金の入った封筒を出された。固辞したが「そう言わずに受け取ってください」と置いていかれた。お二人で山作業をするのだと森に入って行かれた。

石村追記

活動方向 2：若柳嵐山の森： 3月 19日（第三日曜日）

報告 速水 貞夫

小春日和の森に56人が集まった。

- ・森林整備班は、頂上直下北東斜面・崩落跡地整備
- ・望星高校に東海大が参加して来月の桟の木移植の下こしらえにのために「望星の森」へ。

春が来た・・・「森の梅林の下、茶席」東の小京都：若柳・嵐山の森に茶人・加藤恭弘宗匠、お手前による野点が行われた。奥様のご母堂も京よりお越しになり例年とは、また趣きの異なった本格的な茶会となった。

時をおいて、客たちが、森作業服のホコリを払い、首にタオルを巻いたまま、おもむろに茶席へと招かれる。何時も番茶か、コンビニ茶しか飲んでいない諸君は、ご母堂のお点てになるお抹茶を、白梅咲き誇る、ほのかに梅香の中で「雅」を楽しむ。

花粉症に悩む清水仲間は、「香りなんかしないよー」とか言って、銘茶をヅルヅルとすする。音楽はないが、心の中で神楽でも奏でればよい。茶人の心を頂く。



お花畠班 + 東急グループ：土木作業班・・・訳あって、炭窯一号炉を取り壊すことになった。緑のダム北相模の歴史の一端を感じる。取り壊し後は、炊事班の専用場所となる。作業は清水親方率いる清水建設の手で4t トラック1台分ほどの粘土が搬出された。男も女も鍬とスコップの人力によってユンボなら10分も掛かるまいに、当会は人力を基本とする。斎藤仲間が「この炉は、2年かかりで造ったんだが。。。」と感慨深げ。定刻に作業はおわった。私たちのフィールドも時に、レイアウトを変えることで新鮮さを増す。

特定非営利活動法人

緑のダム・北相模、理事長に、永井宏一氏

事務局 石村

2002年7月の設立以来、多くの要職を務めた鈴木重彦氏に理事長をお願いしていたが、お年も88歳になられてFSC認証取得と言う節目もあって、理事長退任の強いご要望が出ていた。

そこで2月19日、臨時理事会を開いて後継理事長を役員各氏に相談した結果、8名の役員：理事・監査役の意見一致で小原町の永井宏一氏にお願いすることとなった。鈴木前理事長退任による1名欠員については、ご子息の史比古氏にお願いすることとしたが、森林組合の仕事が忙しく、決着が付いたら就任と言うことで3月19日、了承して下さった。

永井宏一氏：生糸の相模湖町育ちの町議会議員8期・議長などを務められた。3月20日つけて合併になった相模原市にも大きな人脈パイプを持っておられる。また、小原本陣の森のある小原町の実質的な指導者。性剛毅にして細心、親切肌の、誰が聞いても納得の新理事長である。新年会でも森仲間に相談したが満場一致で賛同を得た。正式には、6月の第4期定期総会で決定する。

新月伐採・「緑のダムFSC嵐山材」；2月25日

2月25日、「かながわボランタリー基金21」による県との協働事業として、NPO緑のダム、津久井森林組合、神奈川県建具組合、津久井地域県政総合センター森林部と協働してポリゴン426・461（鈴木家相模渓谷側巨木の森）の150年生杉を約20立米：12本を伐倒した。この木は、建具の名工のそろう神奈川県建具組合に使って貰う。

FSC認証後の当会に対する評価は上がって、イオン財団、セブン・イレブンみどりの基金他、雑誌などで取り上げられるようになった。
それだけに、ますます精進して謙虚に森に向かわねばならない。



甲州古道の歴史を訪ねて：2月25日

投稿 千葉美佐子
川崎・町づくり研究会・代表

甲州古道のプロジェクトの斎藤さんより、国鉄廃線跡のトンネルをJR貨物の皆さんに是非、見せて欲しい、とのお誘いを頂き、2月25日の土曜日に、まち研メンバーとJR貨物の方々と計6名が、甲州古道の歴史を訪ねるウォーキングに参加しました。

この日はとても暖かく快晴で、鳥沢駅から猿橋駅までの5～6kmを、甲州古道メンバーで歴史ガイドの井田さんより説明を聞きながら、中央線の複線化で残されたレンガ造りのトンネルや橋脚、日本三大奇橋の「猿橋」を訪ねて歩きました。
貴重な廃線跡の歴史遺産を見ることができ、また、斎藤さんをはじめ甲州古道PJの皆さんとの地域への思いやりや歴史を語り継ぐ熱意を感じました。川崎市民の飲み水のルーツである「桂川」を猿橋などからの歴史探訪は、「水源の森林」と川崎との関係を身近に感じ、JR貨物の方々と「都市と森林をつなぐ」事業化に向けて理解を深めることとなりました。

午後は、「葛野川発電所」を訪れ、3850億円の建設費をかけて地下500mにつくられた巨大施設が、首都圏の電力不足に対応するための発電所であることを知りました。

山梨・桂川と神奈川・相模川が川崎の「飲料水・工業用水と電力」で深い関係にあることに気付く、とても良い企画でした。

COC会議：於・SGS本部

報告：生態系調査班 藤島 斎



片桐氏から指導を受ける

3月14日、緑のダム北相模の森仲間5名が、SGSジャパンの森林認証プロジェクトチーム片桐恒夫さんの下を訪ねた。今回の訪問目的は、FSCのロゴマークの利用規定を確認すること。結果から言うと、多少の事務的な手続きはあるものの、現在の活動形態をほとんど変えることなく作業ができることが判明。個々に考えていた製品の開発や林産物の供給の目処が立った。机や椅子などの家具をはじめ、シイタケ、ハチミツ、カブトウシなど、あれもこれも商品化してみようと少々悪乗り気味の森仲間の面々、突飛なアイデアに若干顔を引きつらせる片桐さんが気の毒な気もたが、石村仲間の言葉を借りれば、これも「世界の森を救うため」。片桐さんの表情には気付かぬ振りして、我々は時間の許す限りFSC材を活かす可能性を探った。

小仏峠：景観間伐：3月15日・16日

報告 事務局

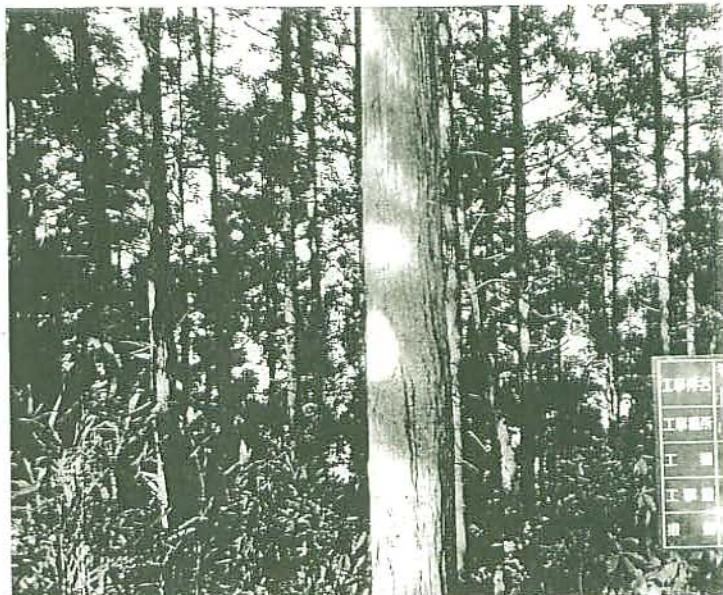
昔、ここは別名・富士見峠とも言って街道随一の富士山の見える関所があったそうだ。

昭和30年代に拡大造林（国策として植林政策）で植林したが手入れができなくなった。ために今は、木がうっそうと生い茂って昔の面影は話しに聞くばかりになっている。

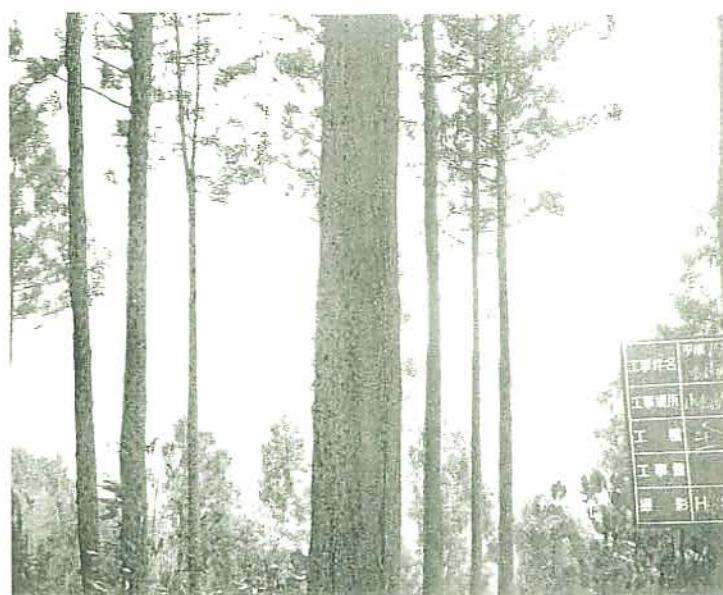
それにここは、県立陣馬・相模湖自然公園でもあるし、県の担当部署に掛け合えばよいのではないかと、交渉を進めた結果、将来、木材として使える良い木を残して遠望に富士山、眼下に相模湖を臨める景観間伐の許可を得ることができた。

作業はプロのサトウ草木の力を借りて、3月15日、16日の2日間で景観間伐をしたのが右の写真である。うす曇りで富士山はかすかにしか見えないが確かに絶景だ。

また、数年前までここに茶店があったが、店主が亡くなつて今は廃屋になつておひり、柱は折れ軒は傾き、何時、崩れ落ちるか分からぬ状態になっている。ここは甲州古道、芭蕉や広重、高遠藩や諏訪藩の大名の参勤交代の道、近藤勇、板垣退助、明治天皇の通過した史跡としても最重要拠点で、このような状態にしておくのは忍びない。



間伐前：峠全体を暗くしている



間伐後：薄く富士山の見える絶景

東京都：高尾国定公園と神奈川県：県立公園の県境で、手続きがややこしいだろうが次の課題として取り組む。

森林N P Oは、単に森林整備をしていれば良いというのではなく、埋もれた価値あるものを発掘するという使命もあると思う。

相模原市と合併：3月20日

- * 関連して：相模原市・企画部・パートナーシップ推進課新設
- * 相模湖町・産業観光課 → 経済環境課へ組織変更

相模原市が津久井郡二町（津久井町・相模湖町、将来的に藤野町、城山町）と合併した。市の組織の見直しが急ピッチで進んでいる。当会は現場最優先で、19日は定例活動日だが、市から行政と市民のパートナーシップの話し合いの召集が掛かったので相模原在住の吉田さんと二人で出かけた。

市の方針として2年かけて議論し、3年目に条例を作る計画である。条例を作るのは慎重でなければならないが、現場活動の実践と平行して検証しながら進めて欲しいと具申した。それはそれとして相模原市が、「パートナーシップ推進課」と言う部署を新設したことは、市民の意見を取り入れた行政を目指すと言うことだから、大いに賛成で、期待したい。

相模湖町は相模原市相模湖町となって、当会の担当窓口はこれまで、産業観光課と言ったが20日を期して「経済環境課」と改称した。当会は、発足当時から「経済と環境は矛盾しない筈、その解決策を探る」と主張してきた。今は「経済は環境の一部でなければならない」と思っている。そのような主張の中で「経済環境課」と改称したのは好ましい。

* 相模原市の自然保護団体との交流

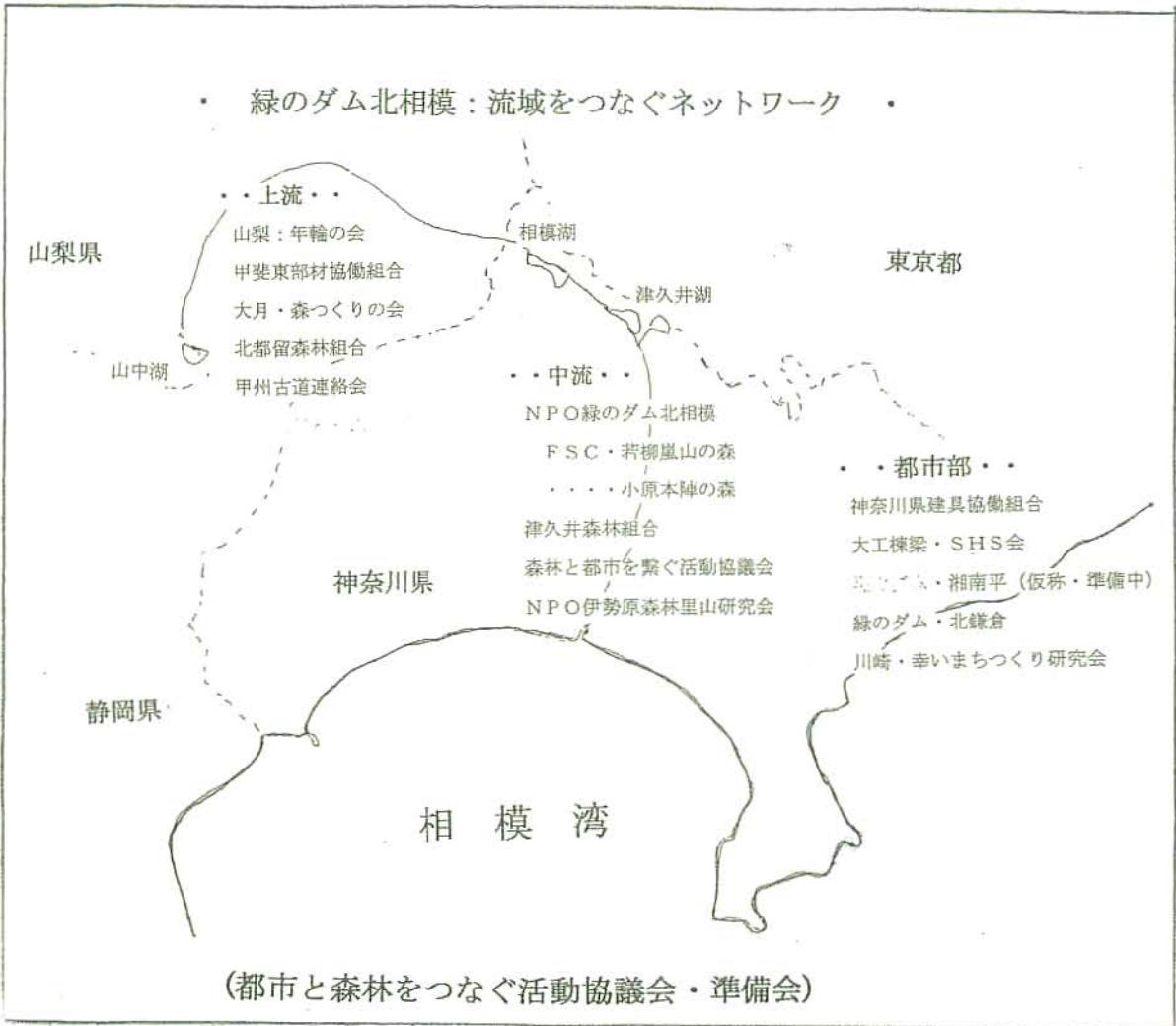
相模原市は、ボランター運動が活発で、何かと接触があった。合併を期に以下の団体と連携しようと言う話が持ち上がった、異論はない。

相模原こもれび：高橋孝子代表；大野台の2.2haの雑木林で活動している30人ばかりの団体で訪問した22日は、5月の新緑祭りに出す木工品の製作に取り組んでいた。穏やかな代表の個性が活動を和やかなものにしている。

NPO 法人自遊クラブ：山本秀正代表：主に相模川河川の保全と流木などで花器などのアート作品の製作をしている。自然保護の広報活動に熱心で、4月15日は相模原市環境情報センターで森林保全セミナーを開くので参加の要請を受けている。

緑のダム北相模：桂川・相模川をつなぐネット

昨年、神奈川県の「ボランタリーキー基金21」事業と協働するに当たって当会の事業を2本の柱を・・、
1森をつくる
2森をいかすとした。
生かすとは「木を使うこと」であり、使うことは、「森を守る」事だ。
森林は、全ての人々の協働が必要だ。



そこで、「上流桂川～下流・相模川をつなぐネットワークづくり」に取り組むこととした。昨年、FSCの認証の森になって以降、急速に各地との連絡が取れ始めた。現在の当会のネットワークは上図のようになっている。5月3日に川崎のJR貨物跡地で開催する「川崎・ネイチャーフェスティバル」は、このようなメンバーで森林を広報し、流域材住宅の促進活動：森にお金を循環させる仕組みつくりに取り組んでいる。今年は、藤沢でも開催する計画にしている。

当会は、発足当時から「環境と経済は矛盾しない」と主張してきた。昨年10月にFSCの認証登録以来、流域をつなぐネットワークが急速に広がりつつある。5年前、相模湖町に善意をつなぐ「地域通貨リバー」を提案したが、このように流域が繋がってくれれば、流域通過の考え方をドイツから持ち帰った当会評議員NHKの河邑厚徳さんと「流域通貨・流域経済圏」も考えてみよ

うという話も持ち上がっている。NPOは、好奇心の塊であり、不可能と言われることでも、良いと思うことには直ちに行動に移すことができるから面白い。

活動アンケート5、回答。

FSCは、問題があればそれを一つずつ解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年2月まで全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)

について解答してきた。今月から森林管理に関する疑問・意見・提案を取り上げる。忌憚のない反論・異論を提供されたい。

(森林計画について)

提案：新たな植樹地に付いてもっと明確の目的や利用方法を決めた上で実施したほうが良いと思う。例えば、望星の森：桟の木植樹— 自然林にもどすのか、用材林にするのかと言うように（活動会員）

回答：このことについては、FSCのガイドラインでも要求しており、当会のFSC推進班は50年先を見た施業計画を提案している。HPのその欄を参考にされたい。

尚、森林にとって何が正しい施業計画なのか余程、難しい問題だと、進行形の森つくりと言う話も出てきたりして益々、話が難しくなっている。しかし、「負の遺産を子孫に残してはならない」と言う一般方向さえ見失はなければ、いろんな意見が出ることは歓迎である。

木を使うこと、森を守ること、5、

文責：自然素材・古材ギャラリー住工房なお

一般的の設計事務所や建築事務所は、材木問屋の情報を余り知らないこと。自分が注文したものが特注か規格品か、高いか安いかも分からぬ。これらの事務所は、設計だけが自分の仕事と思っており、施工の満足度まで責任を持たない。そのようなシステムになっていないことも問題だ。

材木問屋は乾燥させた丸太を柱・ハリ・桁・板材など使い分けるために、大きめに製材して部材ごとに保管する。構造材は特注対応と言うのは少ないが、造作材だと大工さんの長年の経験からサイズを割り出す。木扱い（造作材の寸法）は、大工さんのお任せが通例だからズレが生じる。若し、設計士が規格品の寸法を知っていれば、その中に収められるように設計をすれば良い。

藤沢の家の場合、製材工場に規格寸法を出すように申し入れたが、製材工場でもそのようなことはしていなかったといわれ、随分と時間がかかった。出された規格表を見て驚き！！。

造作材の規格が付いて出でていない。つまり、造作材も一軒ごとに、その都度、製材しているということです。もともと、県産材が出てこない。何故、そうなっているかといえば、需要が少ないので材の供給も少ないという悪循環の結果でしょう。「木を使うこと、森を守ること」をテーマに何をどうするかを考えねばなりません。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと…。

そして、渾身の参加で森はよくなる。

名 称：さがみ湖・森つくりの会：NPO法人緑のダム北相模/森林部会

事 務 局：154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人：石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

HP：<http://midorinodam.jp/> E-mail：moritomo@rk9.so-net.ne.jp

協 働 団 体：神奈川県（企画部、環境農政部、津久井地域県政総合センター森林部）、



ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具組合